国　語　科　学　習　指　導　案

実施期間　平成 20 年 10 月 6 日から 11 月 5 日まで
実施学年　５学年
授 業 者　鯨井　文代

【目指す言語能力】
目的や意図に応じ、構成の効果を考えて、自分の考えを適切に書き表す能力（書くこと　内容イ）

Ⅰ　単元名　課題を見つけて伝え合おう
教材名　「日本語を考える」（教育出版５年下）

Ⅱ　考　察

１　児童観

児童は、これまで説明的な文章『まんがの方法』の教材で、はじめ（課題提示・課題の焦点化）、中（複数の事例・付加の情報）、おわり（集約）という文章構成を押さえてきた。「まんが」の中から情報を取り出すことで、まんがの表現の中には多くの工夫があることに気付き、文章と対応して内容を読み取る学習をしてきた。単元の最後に自分でマンガを紹介する「解説文を書く」学習を行ったところ、多くの児童が、段落構成を意識して文章を書こうとするようになってきている。その後も日常的な書く習慣を付けさせるために、スピーチ原稿で段落構成を考え、〇〇字で自分の考えを書くという取組もしてきているが、まだ様々な場面での書くことへの苦手意識は強く、書くことの様式や書き方に戸惑う児童も見られる。

また、本単元に入るにあたって、レディネステストを実施したところ、形式段落では、ほとんどの児童が正答しているが、文章構成をとらえる問題となると、大段落に分けることに多くの誤答が見られた。

一方、一枚の写真から情報を取り出していく問題では、写真から読み取った情報に対して、自分の意見をもつことができても理由や根拠を絡めて書けた児童は少ない。また読み手に対して納得させる書き方がまだ分からないため、自分の意見や考えを的確に述べるとはどういうことか、文章構成について学習に取り組む必要がある。

２　教材観

高学年の「書くこと」の目標は、目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てることにある。前教材においては、「情報を整理して書こう」で、見学して調べたことや考えたことの情報を整理し、文章の組立を考えて効果的に書く学習を通して、記録文を書いてきた。本教材での学習は、今後『森を作る炭づくり』につながり、第６学年『社会に目を向けて』へとさらに発展していく単元の設定となっている。

本教材「課題を見つけて伝え合おう『日本語を考える』」は、日本語をテーマとして日常何気なく使う言葉について振り返り、改めて日本語を見直し、筆者の日本語に対する見方・考え方から日本語の特質をつかむことを目的としている。本教材の内容の理解を通して、文章全体の筆者の書き方を取り出し、自分の意図を伝える書き方の工夫について目を向けて意見を的確に述べるためには、構成の効果が大切であることに気付かせていくことが大切なのである。そういった意味でもこの教材は、児童にとって毎日使っている日本語を話題としているため、興味・関心を持って読み進めることが可能なため、問題意識を持ちながら理解していくものと思われる。

本教材の文章は、全体が五つの大段落からなっており、尾括型の文章である。大段落①は問題提起、②から⑬

は、三つの事例を挙げており、最後の⑭は筆者の考えがまとめられている。中の展開において意見と事実が並列的に並び、その意見の根拠として事例を挙げて説明している。その三つの事例は、それぞれ独立した内容のものが、読み手に疑問を提示して話題を投げ掛けるように表現している。また、会話文など取り入れ、文末の表現も読み手が自分の生活体験に照らし合わせて考えやすくなっている。さらに、二つの言葉を取り上げることで、比較したり同類として扱ったりと、読み手が考えやすいように工夫した取り上げ方をしていることに気付かせていくこともできる。そして、読み手にとって分かりやすく、納得して読み進められるために、文章の構成の工夫は児童にとらえやすい展開となっている。筆者の結論を根拠と関係付けてとらえたり、筆者の書き方の工夫を探したりすることで、適切な書き方とはどのように書き述べればよいのか理解させるのに、本教材を扱う価値は高いと考える。

＜「読むこと」から「書くこと」への関連学習による系統表＞

読むこと

4年	5年	6年
説明文 「花をみつける手がかり」 「情報掲示板」 「アーチ橋の仕組み」 「便利ということ」	説明文 「まんがの方法」 「森を育てる炭づくり」 「日本語を考える」	説明文 「社会に目を向けて」 「みんなでつくろう『未来の車』」 「人類よ、宇宙人になれ」 「思いや願いを」

関連

書くこと

4年	5年	6年
・情報を整理して書こう（記録文） （礼状） ・昔のことを調べよう（紹介文） ・楽しく伝え合おう（学級新聞） ・見方を変えて話し合おう ・ポスターセッション（ポスター） 段落と段落とのつながりを考えて書こう（生活文）	・情報を整理して書こう 「見学したことをもとに報告文)」 ・考えを伝え合って深めよう 「コラムを書こう（コラム)」 ・情報を正確にとらえよう 「放送原稿を書こう（原稿)」 ・構成を工夫して書こう 「日本語を考える」（意見文）	・情報を基に考えをまとめて書こう 「社会に目を向けて（報告文)」 ・考えを伝え合って深めよう 「パンフレットを作ろう（パンフ)」 ・情報の伝え方を考えよう 「調べたことをまとめる（報告文)」 ・効果的な書き方を工夫して書こう 「思いや願いを（作文)」

Ⅲ　目標

目的や意図に応じ、自分の考えを構成の効果を考えて、適切に書ける力を身に付ける。（C 書くこと　内容イ）

Ⅳ　評価規準

＜国語への関心・意欲・態度＞

目的や意図に応じて自分の考えを交流し、構成の効果を考えて適切に書こうとしている。

＜書くこと＞

目的や意図に応じ、構成の効果を考えて、自分の考えを適切に書く力を身に付けている。

＜言語事項に対する知識・理解・技能＞

目的や意図に応じ、事実と根拠や主張などを示し、表現のきまりを考えて書いている。

Ⅴ　指導方針

＜自分の考えをもつ過程では＞

○導入では、単元を通して日常何気なく使っている「日本語」に対する興味・関心をもたせ、「日本語」に対する自分の意見文を書き、意見文の交流をすることを伝え、目的意識・相手意識をもって学習に取り組ませたい。

○新聞記事の内容には、「日本語」についてのアンケートについての、グラフから情報を取り出し、数値から読み取れたことを意見交流する。そして、グラフの数値が、読み手に与える効果について考えさせたい。また、データの「日本語の乱れ」に対して自分の考えをもち、主体的に意見文を書こととする意欲をもたせたい。さらに、事前のアンケートでは、自分の意見を書く際に根拠が書けない児童が多かったため、新聞やグラフからの情報を取り出して活用すると、それらが根拠として使えることを理解させたい。

○マンガには筆者の訴えたいことが効果的に書かれているので、マンガを取り上げることで、日常的によく使う言葉に着目させ、普段何気なく使っている自分の言葉について関心をもたせたい。そうすることで、単元を通して「日本語」を考えていく学習の見通しをもたせたい。

○筆者の根拠としている事例を二つ取り上げて、筆者が結論で述べている、感謝という見方や習慣、相手を大事にする感じ方などの日本人のものの見方や感じ方の特徴に気付かせるようにさせたい。

○筆者の表現意図を解釈するために、結論から文章構成をとらえ、本論で述べている根拠がどのような役割を果たしているか、意見交流を通して深めたい。

○日本語に特質があるという筆者の結論を説明するために、事例の中でも問いと答えという構成になっており、身近な事例から広がった視点の体験例へと説明している関係を比較しながら考えさせたい。

○本文を吟味することで、筆者が的確に書くために工夫していることを考えさせ、児童の言葉で「書く視点」を明らかにしていきたい。

○日本語の特徴についての筆者の考えに対する自分の考えをワークシートに記録させ、自分の日本語についての意見文を書くときに活かすようにさせたい。

＜自分の考えを深める過程＞

○「書く視点」を活用させながら、ワークシートに自分の考えと根拠・理由を書かせるようにし、自分の考えが分かりやすい記述になるよう参考にさせたい。

○下書きの時点で、意見交流を行い、納得のいく文章であるかどうか構成の違いに気付かせるようにしていきたい。

○友だちの意見文を読むことで、自分の意見文を書くことで読みの深まりを自覚させたい。

○構成がよい文章とそうでない文章の例を比較することで、構成により説得力が違うことを理解させたい。

＜自分の考えをまとめる過程＞

○互いに推敲し、構想の段階と下書きの段階で意見交流することで、自分の意見文の変容を実感させる振り返りを大切にしていきたい。

○学習への意欲や関心をもっていても、なかなか取り組めない支援を必要とする児童に対しては、個別の指導を大切にして取り出して指導することで、学習への達成感をもたせたい。

Ⅵ　指導計画（全１４時間）

離	主な学習活動	時	支援及び留意点	評　価　項　目（評価方法）
見通し1	○マンガから日本語に対する自分の考えを書き、根拠を基に発表する。＜新聞の記事＞	1	○マンガについて意見交流し、ワークシートに自分の考えを書き出してみる。 ○マンガの中から読み取れる情報を確認する。	◇マンガの内容に対する自分の考えを根拠を基に書き、意見交流している。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○グラフから、情報を取り出し、自分の感じたことを書き、意見交流する。 ＜記事やグラフ＞	2	○グラフの中から情報を取り出し、分かることを確認して意見交流させる。	◇グラフから日本語に対する自分の考えをもち、ワークシートにまとめようとしている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○教材文『日本語を考える』を読み、構成をとらえ、結論に対する自分の考えを書く。	3	○筆者の考えが書かれているところと事例（事象）を取り上げ、大段落に分けるよう助言する。 ○結論に対する自分の考えをもたせる。	◇『日本語を考える』の全体の構成をつかみ、結論について、自分の考えを書いている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○文章全体をとらえて読み、要旨をまとめる。	4 5	○文章全体を読み、筆者が伝えたいことをまとめ、要旨をとらえさせる。	◇『日本語を考える』の文章の要旨をまとめている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○筆者の結論と根拠についてとらえ、納得できる書き方の工夫を考える。	6	○文章構成や具体例を挙げることで、筆者の結論と根拠が、読み手に分かりやすいことに気付かせる。	◇筆者の結論が根拠となっている事例や文章構成を理解し、適切にまとめている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○マンガ・新聞記事・グラフ・『日本語を考える』教材から得た表現の工夫を「書く視点」にまとめる。	7	○教材を比較することで、構成の効果について話し合い「書く視点」にまとめさせる。	◇教材を比較することで、その効果について話し合い、「書く視点」にまとめている。 ◆読むこと（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
見通し2	○「書く視点」を基に、自分の『日本語を考える』についての意見文に書きたいことを構成メモに書く。	8	○自分の『日本語を考える』の意見文に書きたいことの構成メモの作成のために、ワークシートを活用させる。	◇「書く視点」を基に、『日本語を考える』の意見文の構成メモを書いている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○自分の考えをまとめ、「書く視点」を活用して自分の『日本語を考える』についての意見文を書く。	9	○構成メモと「書く視点」を活用し、『日本語を考える』についての自分の意見文を読み返し、結論と根拠の関係を押さえながら書くよう助言する。	◇「書くことの視点」を活用しながら、結論と根拠の関係を確認して、構成メモを基に意見文を書いている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○例文の意見文について意見交流し、「書く視点」と比較し、自分の意見文を振り返り考える。	10	○具体的な事例のない悪い例を取り上げ、「書く視点」と比較して考え、表現の工夫がどこにあるか意見交流し、自分の意見文を振り返らせる。	◇例文の意見文について意見交流し、表現の工夫がどこにあるかつかんだり、自分の意見文も「書く視点」と比較したりして、振り返って考えている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○グループごとに書き上げた意見文を交流し合いながら、構成で工夫したところを見付け、相互評価し合う。	11	○グループごとに意見文を交流し、相互評価させ、お互いの文章のよい点と改善点を話し合うように助言する。	◇グループごとに書き上げた意見文を交流し、「書く視点」を活用して相互評価し合っている。 ◆読むこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○再度、自分の書き上げた意見文を、相互評価を活かして推敲する。	12	○表記上の注意点ことや、自分の考えの明確さなど、相互評価してもらった内容を活かして、自分で推敲する。	◇表記上の注意点や、自分の考えの明確さを、「書く視点」を活用し、相互評価を活かして推敲している。 ◆書くこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
見通し3	○「書く視点」を踏まえて書いた自分の意見文を清書する。	13	○「書く視点」を踏まえて書いた自分の意見文について、推敲を基に清書させる。	◇「書く視点」を踏まえて書いた自分の意見文を清書している。 ◆書くこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）
	○『日本語を考える』についての意見文を発表し合い、交流する。	14	○『日本語を考える』についての意見文の交流を行うことで、自分の意見をもち、友達の意見にも納得いく文章であるか評価して聞くようにさせる。	◇自分の意見文の表現のよさを確認し、『日本語を考える』の意見文の交流を通して、伝え合う楽しさや意見文の自分の成長を実感している。 ◆書くこと　（ワークシート） ◆関心・意欲・態度（観察）

Ⅶ　学習展開

（1）本時の学習　（1／14）　**＜見通し1＞**

（2）本時のねらい　　マンガの筆者が言いたいことについて話し合い、マンガの内容に対する自分の考えをもつことができる。

（3）展開

過程	学　習　活　動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
つかむ	1.本時の学習課題をつかむ。 ◇日常の生活でよく使う言葉を考える。 ◇本時の学習材のマンガの記事を音読する。	5	・今はやりの言葉について振り返りをさせ、言葉に関心をもたせるために、発表させる。 ①て言うか・・・　②超、・・・・。 ③ふつう。 ・マンガを掲示し確認しながら、本時の学習課題をつかせ、音読させる。 ・音読の苦手な児童に寄り添い、一緒に音読し、正しく読めるように支援する。	
	「うざい」マンガで筆者の伝えたいことについて、自分の考えを書こう！			
深める	2.学習課題について自分の考えをもち、意見交流する。	15	・筆者の考えの分かるところに赤線を囲み、なぜ筆者者の考えだと分かるのか理由をはっきりもてるようにする。 ・予想としては、次のようなことが挙げられる。 ①　「うざい」といったことを後悔している。 ②　話している相手を怒らせてしまった。 ③　「うざい」という言葉を楽しんでいる。 ・マンガだけでは、感じ方も読み手によってずいぶん多様になりやすいことに気付かせる。 ・「書く視点」の中に、文章を書くには目的や意図があることを引き出していく。 ・マンガの内容について、自分の意見を書き、意見交流することで、読み手にもいろいろな感じ方があることをつかませる。	
	3.「ウザイについて」の意見文を読み、筆者の考えについて、マンガと比較して、筆者が伝えたいことや意図の伝わり方の違いについて意見交流する。	20	・「ウザイについて」の意見文を読み、筆者の言いたいことが何なのか、各自の考えをグループの中で発表して交流させるようにする。 ・発表の際には、自分の考えと理由をはっきり述べるように指示する。 ・グループでの交流で出された内容を簡単に押さえ、観点を明確にして、全体での交流をさせることで、筆者の考えについて読み深めていくようにする。 ・グループの交流の様子を見取りながら、交流がスムーズに行えるように支援していく。 ・うまく自分の考えを説明できない児童には、説明の仕方を具体的に助言し、自分の考えを言えるようにしていく。 ・全体での交流の場面では、児童の考えを黒板に整理しながら、視覚的に筆者の考えをとらえられるよう工夫していく。	◆書くこと マンガの内容に対する自分の考えを書いている。 （ワークシート・発表の内容）
	[予想される反応] ・今もマンガはたくさん読まれているし、マンガのほうが何が伝えたいのか早く分かるので、便利だけど、人によって感じ方や伝わり方が違ってくると思います。 ・「そればかりか」という言葉は、付け足して言うときに使う言葉だから、ウザイという言葉についてみんなに考え直してほしいと、どちらも筆者の言いたいことなんだと思います。 ・書く人は、意図をもって何かを伝えるために書いているということが分かりました。			
ふり返る	4.学習を振り返り、感想などを書く。	5	・ワークシートに書かせ、数人の児童に発表させるようにする。 ・振り返りの様子を観察し、どの児童もしっかり振り返りが書けるように支援していく。	

（1）本時の学習　（7／14）　**＜見通し1＞**

（2）本時のねらい　　筆者が「日本語を考える」を述べるときに、表現の工夫していることに気付き、「書く視点」にまとめることができる。

（3）展開

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
つかむ	1．本時の学習課題をつかむ。 ◇学習の確認をする。 ◇音読する。	5	・本時の学習課題を提示し、音読させる。 ・筆者が「日本語を考える」の文章で工夫しているところを見付けていくことを確認する ・音読の苦手な児童に寄り添い、正しく読めるように支援する。	
	筆者が「日本語を考える」を述べるために、表現の工夫しているところを探そう！			
深める	2．学習課題について自分の考えを明らかにするために、根拠を短冊に書き込む。	5	・結論の言葉をたよりに、根拠が大切であり根拠がどこに書かれているのか、発表し合う。 ・書き方としての例示を短冊に書いておくことで考えさせる。 ・複数ある場合は、何個書いてもよいとさせる。 ・意見交流することで、読み手にもいろいろな感じ方があることをつかませる。	
	3．根拠がどんな書き方で書かれているのかをグループごと、クラス全体で意見交流する。	30	・各自の考えをグループの中で発表し交流させるようにする。 ・自分の考えと理由をはっきり読み上げさせ、同じ意見は整理させる。 ・グループの交流の様子を見取りながら、交流がスムーズに行えるように支援していく。 ・グループの交流で出された内容をまとめて発表させ、全体での交流で筆者の結論が文章構成の工夫や根拠としての具体例にあることに気付かせる。 ・黒板に整理しながら、視覚的にとらえられるよう工夫していく。 ・事例は筆者の表現の工夫であることを、「書く視点」と押さえる。	◆書くこと 筆者の結論を導くためには、文章構成や根拠としての具体的な例が大切であることをつかんでいる。 （ワークシート・発表の内容）
	[予想される反応] ・具体例が自分の家の玄関でのできごとであったり、レストランでのできごとであったりして、実際にあったことを挙げて根拠としている。 ・「すみません」と「ありがとう」を比べているから、「すみません」と「ありがとう」の使い方で、実際にへりくだるところで見たことを取り上げている。 ・できるだけ身近なことに目を向けた例を挙げて、読んでいる人に分かりやすいように、書いている。 ・自分の生活と比較して考えることができる内容を書くようにしている。 ・筆者が、結論を述べるときには、本論の中で根拠となることを複数取り上げて書き、結論でも二つの言葉をまとめて書いている。			
ふり返る	4．学習を振り返り、感想などを書く。	5	・ワークシートに「書く視点」とは、筆者が結論と本論を結ぶために、具体例を挙げて根拠としていることをまとめさせる。 ・数人の児童に発表させるようにする。 ・振り返りの様子を観察し、どの児童もしっかり感想などを書けるように支援していく。	

（1）本時の学習　（１０／１４）　**＜見通し２＞**

（2）本時のねらい　例文（A・B）について「書く視点」を参考にして、改善点やよい点について意見交流し、意見文を書くときの視点の大切さを理解できるようにする。

（3）展開

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
つかむ	1．本時の学習課題をつかむ。 ◇学習することを確認するために課題を音読する。 ◇範読を聴く。 ◇二つの例文を黙読する。	5	・本時の学習課題を提示し、音読させる。 ・範読後に黙読させる。 ・日本語に対する意見文を例示し、その文章の違いについて考えるよう提示する。	
	二つの例文は、どのように書けばもっと良くなるか「書く視点」を基に考えよう！			
深める	2．学習課題について自分の考えを明らかにするために、根拠を短冊に書き込み、発表させる。	10	・例文Aについては、「書く視点」に照らし合わせながら、どんな点が良いのか考えさせる。また、例文Bについて、「書く視点」と照らし合わせながら、どんな所を直すとよいのか、気付いたことを意見交流し赤線で囲む。 ・「書く視点」を参考にどこが良くないのか考え、赤字で理由をメモさせる。 ・複数ある場合は、何個でもよいことを話す。 ・理由について発表させる。	
	3．グループごと、クラス全体で意見交流して、表現の工夫について理由を整理させる。	25	・各自の考えをグループの中で発表し交流させるようにする。 ・自分の考えと理由をはっきり読み上げさせ、同じ意見は整理させる。 ・グループの交流の様子を見取りながら、交流がスムーズに行えるように支援する。 ・全体での交流で筆者が文章構成や根拠について、具体的にどんな工夫があるのかに気付かせる。 ・黒板に整理しながら、視覚的にとらえられるように工夫する。 ・自分の意見文の中で取り上げている事例は、結論につながり説得力があるのか、振り返らせる。	◆書くこと 二つの例文の意見文について「書く視点」と比較しながら、その改善点について考え、気付いたことを書きこんでいる。 （ワークシート・発表の内容）
	[予想される反応] ・「書く視点」を基に例文を比べたら、事例はできるだけ具体的な方が納得できた。 ・文章の構成が「結論」から始まるのも意味がよく分かったので、説得力があった。 ・できるだけ身近なことに目を向けた例があり、自分の生活と比較して考えることが、納得できた。自分の生活の中から事例を考えたい。			
ふり返る	4．学習を振り返り、感想などを書く。	5	・学習を振り返り、何が分かったか確認するためにワークシートに書かせ、数人の児童に発表させるようにする。	

（1）本時の学習　（１３／１４）　**＜見通し３＞**

（2）本時のねらい　　「書く視点」を基に自分の意見文を推敲し清書することができる。

（3）展開

過程	学　習　活　動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
つかむ	１．本時の学習課題をつかむ。 ◇課題文を音読する。	5	・前時に意見交流した際についてきた付箋紙を見て意見文を仕上げることを指示する。 ・その際に、自分の考えの参考となることとしてとえ、自分の考えを大切にしていくように伝える。 ・章構成表の中で書いた内容を、原稿用紙に誤字なを直しながら、書き上げさせる。	
	「書く視点」を基に自分の意見文を推敲して清書しよう！			
深める	２．「書く視点」を活用しながら、自分に返ってきた意見文をよく読み直して、清書する。	15	・付箋紙を見て、再度、自分の意見文を見直していくことが大切であることを確認する。 ・結論で言いたいことは、本論で説明されているのか。 ・題名は、結論とずれていないか。 ・本論の中で、根拠となっている事例は、どんな工夫をして書いたか。 ・内容で足りないことはないか。	◆書くこと 「書く視点」を基に、推敲し清書しようとしている。 （ワークシート・発表の内容）
	３．意見文を読み、自分の考えが、読み手に伝わるか、もう一度読み直しながら、「書く視点」を基に確認する。	20	・結論の確認をして、本論での書き方を確認して、読み直しをさせる。 ・清書が終わった場合は、同じグループの人と交換合って、もう一度読み直すよう助言する。 ・誤字や記号などの書き方の誤りがないか確認し読直しするよう助言する。	
	[予想される反応] ・「忘れられない言葉」の事例では、反対の意味での事例を取り上げて構想し直したことで、私の言いたいことが、「とても分かりやすくなった。」とほめてもらってうれしかった。自分だけでなく、読んでもらいながら書くと文章が上手になってうれしい。 ・自分では、分からなかった書き方の工夫点が教えてもらえて、書き直せたのでよかった。 ・友だちの付箋紙の中には、自分の意見が過去にあったことと、最近の出来事だったので、内容を知っているので、その気持ちもよく分かった。			
ふり返る	４．清書が終わった児童の中から代表 1～2 名が読む。その後、学習を振り返り、感想などを書く。	5	・書が終わっている児童の中から、意見文を読み上げてもらう。 ・次時に意見文の交流会が行われることを伝え、相手を意識して、はっきり読めるように練習しておくように伝える。	